


## 教材・支援機器活用実践事例

### 【周りの様子に興味関心をもち、体を動かそうとする意欲を高める支援】

	実施年度	平成28年度
授業について	教科名等	自立活動
	単元・題材名	カラフルトンネルをくぐってみよう
	授業における教師のねらい	○色や光などの変化に気付き、周囲の様子に視線を向ける力を育むー「環境の把握」(1) ○寝た姿勢から首を起こしたり、よつばいで移動したり、自分からできる動きを引き出すー「身体の動き」(1)(2)
子どもについて	授業における子どもの目標	A 児：カラフルトンネルの色や光の変化に視線を向け、寝た姿勢から自分の力で首を起こしたり、布に触れたりするなど、楽しみながら体を動かすことができる。 B 児：カラフルトンネルの色や光の変化に視線を向け、中に入ったり、外に出たり、よつばいで移動したりするなど、楽しみながら体を動かすことができる。
	学級・学校・学年	特別支援学校 小学部 低学年
	対象の障がい	肢体不自由 知的障がい
学習上又は生活上の困難さ	子どもの特性や教育的ニーズ	A 児：周囲の光の変化を感じ取り、顔を向けることができる。首がまだ完全にすわっていない。 B 児：座位保持ができる。興味のある物に向かって手を伸ばしたり、体を前傾させて移動しようとしたりする。よつばいで数歩、移動することができる。
教材・支援機器活用	使用した教材・支援機器の名称	 <p>トンネルは、フラフープ（連結タイプ）を半円にしたものを軸にして、布に通し、台車にうつぶせに乗った状態でも広々とくぐれる幅にした。</p> <p>触れたときの心地よさを感じつつ、色や光の変化に目を向けやすいように、布は光沢のある布（サテン）と半透明な布（オーガンジー）を使用した。</p>
	活用のねらい	・台車に乗ったまま移動したり、よつばいで移動したりして遊ぶ。
授業における支援 ・教材の配慮事項		<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちが自分の動きを生かして、めいっぱい活動できるように、トンネルは必要に応じて臨機応変に形を変えられるようにした。</li> <li>・児童の実態に応じて布をたたむなどして長さを調整して使用する。</li> <li>・トンネルの横に空間を設け、児童が外の様子を確認し、いつでも出入りできる状況にすることで、安心して活動できるようにした。</li> </ul>
子どもの変容や評価		<p>A 児：台車に乗って自分から首を起こそうとしたり、手を伸ばしてカラフルトンネルの布をつかんだりする動きが増えた。トンネルをくぐり抜けたときに、頭を動かして快の表情を見せるようになった。</p> <p>B 児：トンネル内で立ち止まり、布から漏れる光の方に視線を向けたり、出口に向かい、よつばいで自力で移動したりするようになった。</p>

